

with Dam ★ Night in Kyoto

★そうだ、ダム行こう！
 ダムの魅力を体感してみませんか？ ☆
 We are dam engineers, fans and lovers

- ・ 日 時：平成 24 年 6 月 3 日（日）11:00～19:00
- ・ 会 場：京都駅ビル・イベントスペース（インフォメーション前）
- ・ トークショー：

プログラム・タイトル	上段：スピーカー	下段：トークショーの内容
トークショー-1 (12:00～13:00) ダム魅力とは？	1. 萩原雅紀 (ダムライター/フォトグラファー) 2. 夜雀 (ダム愛好家)	日本のダムマニアを代表して、萩原氏と夜雀さんが、「東西対抗ステキなダムトークバトル」を行います。さまざまなダムの魅力を紹介するために、黒部川～天竜川あたりを境に東西に分かれて、お互いのお気に入りのダム写真で真つ勝負。それぞれのダムについての思いのたけを語り合います。
トークショー-2 (14:00～15:00) ダムの仕事	1. 夜雀 (ダム愛好家) 2. 中村靖治 (中村事務所)	ダムといわれて頭に浮かぶのはどんなものでしょうか。ダムは水道の水だけを供給することが仕事ではありません。水力発電や灌漑用水、大雨の時の防災操作など日本のダムはさまざまな仕事をしています。人の暮らしを支えるダムの仕事を知って下さい。
トークショー-3 (16:00～17:00) 水力発電が日本を救う	1. 岡本政明 (ダム工学会副会長) 2. 夜雀 (ダム愛好家)	日本は美しい海と山に恵まれた土地です。この山々にある水の流れを巧みに利用したのが水力発電です。このように、水力発電は、我が国の自然環境を利用した、再生可能なクリーンで安全な国産エネルギーであり、電力のベース供給力として活用しています。水力発電のしくみとその潜在能力について、お話しします。
メイントークショー (18:00～19:00) 世界のダムの魅力を語る	1. 角 哲也 (京都大学防災研究所教授) 2. 坂本忠彦 (日本大ダム会議会長) 3. Jinsheng JIA, President of ICOLD (国際大ダム会議総裁) 4. Anton Schleiss, Prof. LCH, EPFL, Switzerland (スイス大ダム会議会長, スイス連邦工科大学ローザンヌ校教授) 5. George Annandale, D.Ing., PE, D.WRE, F.ASCE, Principal, Program Leader, Golder Associates Inc., USA (米国のダムエンジニア, ダム関係コンサルタント Golder Associates 社長)	国際大ダム会議の第 24 回大会(および第 80 回年次例会)が、はじめて日本で開催(6/2～6/8: 国立京都国際会館)されます。今回の会議では、昨年の東日本大震災や台風 12 号による紀伊半島の土砂・洪水災害とダムの関係、気候変動の影響、ダムの再開発、さらには、ダム技術の継承などのトピックスについて議論が行われます。そこで、こうした国際大ダム会議京都大会を紹介するとともに、日本、中国、スイス、アメリカのそれぞれのダムの特徴、思い出深いダムについてその魅力を語っていただきます。

・映像放映：

①11:00～12:00	ICOLD 2012 kyoto と with dam★night in Kyoto、日本のダム、天ヶ瀬ダム建設工事記録
②13:00～14:00	近畿の多目的ダムの紹介(日吉ダム、大滝ダム、布目ダム等)
③15:00～16:00	発電ダムの紹介(黒部ダム、奥吉野発電所等)
④17:00～18:00	海外ダムの紹介(三峡ダム、ドライダム等)

・ダム写真展：

①ダム魅力満載写真展	感動のダム写真 33 枚を紹介(日吉ダム、黒部ダム、奈良俣ダム、志津見ダム、長井ダム、坂本ダム、二川ダム、滝沢ダム、本庄ダム、albigna Dam 等) 【提供：萩原雅紀】
②ダムカード写真展	近畿圏内のダムカード 62 枚をすべて紹介【提供：国土交通省近畿地方整備局】

・ダム関連各種資料閲覧・配布：

①閲覧資料	ダムカード、ダム関係書籍数点、ダム関係音楽 CD、ダム大研究 e 図鑑等
②配付資料	各種ダム関連団体・イベント・書籍等のパンフレット、ダムの各部名称説明資料等

・入場無料

・主 催：一般社団法人ダム工学会 企画運営委員会活性化推進小委員会 中部・近畿ブロック幹事会

ダム工学会とは？・・・「with dam ★ night in Kyoto」開催趣意

ダムは、治水・利水に亘り、人間の社会的・経済的活動を支える重要な社会基盤施設であるとともに、美しい水辺環境を創出し、人々の心に安らぎを与えるという機能を兼ね備えています。

ダムの設計・施工・管理についての技術発展を期して形成された学問であるダム工学とは、従来、総合工学と呼ばれてきたように、関係する各学問分野の総合技術として研究が進められてきました。すなわち、応用力学、構造工学、鋼構造学、耐震工学、水理学、水文学、河川工学、発電水力学、衛生工学、土質工学、基礎工学、岩盤力学、計画工学、土木材料学、コンクリート工学、農業土木学、応用地質学、機械工学、電気通信工学等の総合工学として発展してきたわけです。ダムが現在直面している数多くの課題に対応するためには、これらの研究のより効率的な推進及び総合化を図ることが重要であり、ダム技術を有機的に結合する新しい学問体系をより一層発展・充実させる共通の場の設定が必要と考え、「ダム工学研究会（ダム工学会の前身）」が創設されました。

（ダム工学研究会は、平成5年9月10日付けで、日本学術会議法に基づく学術研究団体に認められ、平成6年5月10日の通常総会をもって、本会の名称を「ダム工学会」と改めました。）

ダム工学会では、国内における関連学協会はもとより、国際的な学協会及び研究機構との連携も図っていますが、今回、世界のダム技術者が集い技術討議を行う国際大ダム会議が下記に示すように初めて日本（京都）で開催されることを期に、一般の方々にもダムという構造物が持つ大きな役割や魅力に触れて頂く機会が提供できればということで、「with dam ★ night in Kyoto」を企画しました。

ダムという構造物が生み出す大きな役割を知って頂くとともに、その圧倒的なスケールから受ける感動を是非体感して下さい。



住所：〒110-0008
東京都台東区池之端2-9-7 池之端日殖ビル2F
(財団法人ダム技術センター内)
HP：http://www.jsde.jp/index.html

「with dam ★ night in Kyoto」 会場案内

京都駅ビル・イベントスペース
(インフォメーション前)



国際大ダム会議 第80回年次例会及び第24回大会 開催概要

1. 会議の名称： 和文名 国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会
英文名 80th Annual Meeting and 24th Congress
International Commission on Large Dams
2. 主催： 和文名 国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会 組織委員会
英文名 Organizing Committee for 80th Annual Meeting and 24th Congress
International Commission on Large Dams
3. 会期： 平成24年(2012年)6月2日(土)～8日(金)(7日間)
第80回国際大ダム会議年次例会：技術見学会、年次例会総会、国際シンポジウム
第24回国際大ダム会議大会：課題討議(3年に1回の開催)
4. 開催場所： 国立京都国際会館(主会場)
京都ホテルオークラ(第2会場)
5. 参加者： 世界95ヶ国から約1200名の参加を想定
6. 事務局： 国際大ダム会議京都大会組織委員会
(社団法人 日本大ダム会議内)



(なお、この会議に出席するためには事前登録が必要であり、登録のない方は会場に入れません。)